

『論語』「子罕」に、「歳寒、然後知松柏之後凋也」の例が見える。

杜甫の「秋興八首」に「玉露凋傷楓樹林」の句が見える。

『白氏文集』「⁰⁸⁸⁷歳晚旅望」にも「萬物秋霜能壞色／四時冬日最凋年（萬物秋霜能く 色を壞り／四時 冬日 最も年を凋ましむ）」の句が見える。

新釈漢文大系本『白氏文集（三）』の「余説」には、次の日本漢詩の三例を挙げている。

大江維時『千載佳句』上、冬興に、「万物秋霜能壞色 四時冬日最凋年」と。

同じく「煙波半落新沙地 鳥雀群飛欲雪天」と。

藤原公任『和漢朗詠集』卷上、霜に、「万物は秋の霜よく色を壞る、四時には冬の日最も年を凋ましむ」と。
（新釈漢文大系本『白氏文集（三）』三〇九頁）

2 晩冬…冬の末。陰曆十二月の異称。

催立…（天が）立春になることを催す。

早春…春のはじめ。はつはる。孟春。

太宗「早春詩」に「寒隨窮律變／春逐鳥聲開」の句が見える。

『漢語大詞典』には「①初春」と説明し、「李涉《過招隱寺》詩」の「每憶中林訪惠持／今來正遇早春時」の句を引く。